

第9回大阪マラソン「みんなでかける虹」エピソード Vol.2

走る人（ランナー）、応援する人（観客）、支える人（ボランティア）、
みんなが主役の大阪マラソン。ランナーだけではなくそれぞれの、
魅力的なエピソードや今大会への想いをご紹介します。

- 上野 富蔵(うへの とみぞう) 44歳 大阪府在住
種目:マラソン(日本陸上競技連盟に登録していないランナー)
チャリティカラー 黄色《家族を支える》



妻に腎臓を移植する。 健康でいられた我が身と、走らせてくれた妻に感謝を。

——奥様が腎不全を患われたそうですが…。

二年前から妻の体調が悪くなりはじめ、腎不全が発覚。以来、透析生活を送っています。一日に四回、腹膜の液を自分で入れ替える妻。痛みはないそうですが、やはり身体には負担がかかりますし、私自身毎日目にしていて心苦しい気持ちがありました。そして二人で話し合い、私の腎臓を妻に移植することを決意しました。

——移植に対して不安はありませんか？

お医者さんともしっかりと相談しましたから。同じように走れるだけの体力が残るかどうかが、やってみないとわかりませんが、日常生活には支障ありません。今回の大阪マラソンが、腎臓摘出前の最後の長距離マラソンということになります。ここで自己新記録を出して、これまでの自分の身体に感謝するとともに、元気な腎臓を妻に渡したいですね。自分の身体も、妻も、これまで私を支えてくれた大切な存在です。

——コースが変わったことで、自宅付近も通過するらしいですね！

昨年、陸上部の息子がボランティアで給水所の補助員などをしていて、私もその前を通過しました。高校三年生になった今年は、受験勉強に忙しそうです。妻も応援に出られるかは体調次第ですので、家の近くを通れるのは、家族のことを想って嬉しく思います。今回の目標タイムは3時間30分。術後はしばらく走れないと思いますので、今回の大阪マラソンには全力で挑みたいと思います！

- 土屋 絵津子(つちや えつこ) 44歳 大阪府在住
種目:マラソン(日本陸上競技連盟登録競技者)
チャリティカラー 緑色《大阪のまちを支える》



夫婦円満、結婚20周年を迎えた今年。 新婚時代を思い出しながら、二人で大阪のまちを走る！

——大阪マラソンには二回目の参加になります。

三十代ラストの記念に走り始めたマラソン。しばらくは一人で走っていましたが、かつてサッカー経験者だった主人も、一緒に走りたいと言うようになりました。「俺だってまだまだ走れるぞ！」と負けん気に火がついたみたいで(笑)。7月に結婚20周年を迎えた今年、夫婦で大阪マラソンに参加できて嬉しいです！

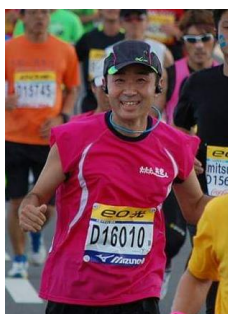
——当選していない年も、ボランティアで参加されてきたそうですね。

ボランティアは間近で応援できるのが楽しいです。人の力になれると、自分にも力が湧いてくる。神戸マラソンでは、目の不自由な方と一緒に伴走する経験もしました。安全に、相手がこけないように注意を払って走るのは大変ですが、「一緒に走ってくれてありがとう」といってもらえることが喜びです。今回は夫婦でのんびり、新しいコースで大阪のまちを走りたいと思います。

——高校二年生の双子の娘さんがいらっしゃるそうで。

一度応援に来てくれましたが、本人は走ることに興味がなさそうです(笑)。主人は長野県出身ですが、私は生まれも育ちも大阪府。新婚当時に暮らしていた九条一丁目あたりも通るので楽しみです。もしかしたら当時住んでいたマンションも見られるかもしれません。家族で暮らし、長く親しんできたこの大阪のまち。いつかの日か娘二人とも一緒に走ることも夢見つつ、楽しくファンランで駆け抜けます！

● 永井 亨(ながい とおる)さん 52歳 奈良県在住
種目:マラソン(日本陸上競技連盟に登録していないランナー)
チャリティカラー オレンジ色《子どもの未来を支える》



障がいのある子どもたちを教育する日々。
少しずつ、一步ずつ感じられる成長に涙する。

——院内学級で障がい児教育を行っているそうですね。

病院の中に教室としてのスペースをいただき、登校できない重度の障がいを抱える子どもたちに授業をしています。下は小学二年生から上は高校二年生までを現在は教えています。動くことが困難な子どももいるため、「ベッドサイド授業」を行うことも。制約がある中でも、全員が懸命に学ぼうとしてくれています。

——日々の教育の中で、どんな喜びを感じられますか？

障がいがあることで、健常者と比べると成長の実感が難しいこともある。それでも、ほんの少しずつは成長しているんです。例えばボールを投げられない子もいるけど、パチンコのようなものを渡すことで、ゴムの力でボールを飛ばすことができる。できなかったことが達成できた、その瞬間の子どもたちの表情が本当に愛おしいんです。ドクターやナース、保護者全員で、その子を称えられる大切な瞬間です。

——大阪マラソンで走る姿も、子どもたちに見てもらいたい。

外出が難しい子どもたちも多い。大阪のまちを、彼らは知識でしか知りません。大阪城や京セラドームについて、話はするしインターネットで写真を見せたこともあります。目の前では見られない。だからこそ、私が走る姿とともに大阪のまちを映像や写真におさめ、子どもたちに少しでも景色に実感を得てもらえたらと願っています。完走した暁には、一人ひとりに手作りの完走メダルを送ってあげたいです。

● 藤原 豊(ふじわら ゆたか)さん 51歳 兵庫県在住
種目:マラソン(日本陸上競技連盟に登録していないランナー)
チャリティカラー 黄色《家族を支える》



自閉症スペクトラムを持って生まれた娘。
たくさんの人に愛されるように成長してほしい。

——娘さんは今年で7才になったそうですね。

生まれてまもなく髄膜炎を患った娘。元気に成長して、今は一般の小学校の支援学級に通わせています。けれど自閉症の影響で、とてもこだわりが強い。食べ物の好き嫌いもあるし、対人関係においても嫌なことは激しく嫌がる。困ることも多いですけど、元気に学校に通えている日常を愛おしく思っています。

——出産をきっかけに、自分にも変化があった？

マラソンを始めたのは娘の誕生がきっかけですね。もともとジム通いをしていて、運動に馴染みがないわけではありませんでした。しかしベンチプレスの大会にも出場経験があって、身体がゴツイ(笑)。やはり娘が生まれたことで心境の変化があり、禁煙もしたし、マラソンをすることに。ミニマラソンから初めて、フルマラソンは今回の大阪マラソンで三回目の挑戦になります。

——今回の大阪マラソン、どのような想いを胸に走りますか？

基本的に走ってるとき、思考は無に近づきます。だけど、やっぱり娘に諦めないことの大切さを伝えたいですね。自閉症という障がいにおいては、周囲とのコミュニケーションが最もネックになります。やはり心配なのは、娘のこれからの人生です。たくさんの人から愛をいただける人間に成長して欲しい。大阪マラソンは、沿道の温かい応援が力になる。人と人とがつながる喜びを、娘にも届けたいです。

- 森本 和雄(もりもと かずお) 50歳 京都府在住
種目:マラソン(日本陸上競技連盟に登録していないランナー)
チャリティカラー 赤色《生きる希望を支える》



海外協力隊のシニアボランティアでガボンへ。 人の優しさ、温かさに感動した。

——今年の10月に大阪に帰ってきたばかりとのこと。

二年間、西アフリカのガボンという国でボランティアをしていました。前職がSEだった経験を活かし、USTMという国立の技術系大学でコンピューターを指導。つたないフランス語でどこまで教えられたか自信はありませんが、非常に充実した二年間になりました。また機会があれば参加したいと思います。

——大阪マラソンには二回目の参加になります。

40代になってから始めたマラソン。始めて走った京都マラソンでは腰が痛くなって途中から歩いていました。そのとき、沿道の応援が本当に力になって。大勢の人が迎えてくれるゴールの瞬間、涙がこぼれましたね。ガボンでも、たくさんの方の温かさに触れました。町の方が優しく、道を歩いているだけで挨拶してくれる。カバンが開いたままになっていたなら「危ないよ！」と注意もしてくれるんです。

——今回の目標はなんですか？

自己ベストを更新し、3時間30分を切ることですね。ガボンでもマラソン大会に参加しました。アフリカなのでとても暑かったです。だけどそういった苦しさ、辛さを乗り越えた先に、大きな感動がある。フルマラソン経験者はみんなそうだと思いますが、ランを続ける最中ではへこたれそうになる瞬間が訪れる。そんなとき支えになるのが人の力。分け与えられた力を、私自身も誰かに与えて生きていきたいです。

- 北村 直也(きたむら なおや)さん 47歳 大阪府在住
種目:マラソン(日本陸上競技連盟に登録していないランナー)
チャリティカラー 紫色《美しいまちと暮らしを支える》



青春時代を過ごした地元・天王寺。 走ると胸に浮かぶのは、小学校からの友人の笑顔。

——天王寺高校のご出身だそうです。

今回のコース変更で、より地元を感じられる道になりました。今里筋、勝山通、天王寺公園。高校時代も陸上部だったんです。先日一度本番と同じコースを試走しましたが、友達と一緒に帰った道を通りながら、言葉にしがたい郷愁が胸に湧き起こりました。一つひとつを語れないほど、多くの思い出が浮かびます。

——昨年も大阪マラソンには参加されました。

昨年、ゼッケンに友人へのメッセージを書いて走りました。病院でリハビリ生活を送っている小学校時代の友人がいるんです。彼に少しでも勇気を与えられたらと、「頑張れ」という内容のメッセージを書いて走りました。でも実際に勇気もらったのは自分の方でした。「自分だけじゃない、彼も頑張っているんだ」という気持ちで、完走することができました。

——今回は、どのような想いで走りますか？

彼のリハビリは今でも続いています。今年は「頑張れ」ではなくて、「頑張ったな」という想いを伝えたい。いつも前向きに気丈に振る舞っていますが、きっと辛い気持ちだってあると思う。自分にできることは少ないけれど、遠くから友人として、彼の姿勢を称えてやりたい。私たちが生まれ、今も暮らしているこの大阪のまち。彼が頑張ったこの一年間を、そして今日までの人生を、振り返りながら走りたいと思います。

● 澤田 愛(さわだ あい)さん 36 歳 愛知県在住

種目:マラソン(日本陸上競技連盟登録競技者)

チャリティカラー 赤色《生きる希望を支える》



**病にも負けず、いつも笑顔でいる母に支えられている。
走ることができる自分の身体に感謝を！**

——大阪マラソンには三回目の参加となります。

2015 年に友人に誘われて名古屋ウィメンズマラソンに参加したことがきっかけで、マラソンが好きになり、以来毎年走っています。初めてのランが 4 時間 8 分で、次は 4 時間を切りたいと思うように。大人になってから、「次の目標、次の目標」と夢中になれることを久々に見つけた気分で、一生懸命取り組んでいます。

——例年、家族総出で応援に駆けつけてくれるそうです。

実は母が肺がんを患い、現在でも投薬・服薬治療を行っています。体調にも振れ幅がありますが、いつも名古屋ウィメンズのときには父・母・弟で応援に来てくれますね。母はいつも元気でパワフル。一緒に住んで生活していますが、病人だということをふと忘れてしまいそうになります。35km 以降の辛い道のり、沿道で応援してくれる母を目にすると、「母があれだけ元気なんだから！」と力が湧きます。

——もし可能であれば、大阪マラソンにも来て欲しいと。

体調次第がよさそうであれば、この大阪のまちに母も連れてきてあげたいですね。応援に来て欲しいというよりは、一緒に旅行がしたい。親孝行ができる機会も限られてきていますから。先日、大阪にある医療用ウィッグの専門店に母と訪れました。ついでにおいしいものを食べて、観光して…。母が笑顔でいるからこそ、健康な自分が弱音を吐くわけにはいかない。今回は 3 時間 45 分切りをめざします！

チャリティランナー

田中 善和(たなか よしかず)さん

寄付先団体: 認定 NPO 法人がんサポートコミュニティ



大切な人をがんで亡くした。感謝と祈りを込めて走る。

チャリティーランナーとして、6年連続「がんサポートコミュニティ」様へのファンドレイザーとして参加しています。9年前に母をがんで亡くしました。闘病中に大したサポートをできなかったことを今でも悔やんでいます。私が元気であることが、少しでも母の供養になればと、そんな気持ちで走り続けています。そんな中、仕事でお世話になった方にもがんが発覚。がんに負けるなど祈りを込めて走っていましたが、昨年、その方もがんにより亡くなりました。私にできることは少ない。大きなことができる人間ではありません。ただひたすら、日々感謝の気持ちを込めて、こつこつと走り続けたいと思います。完走できる体力づくりのため、週3回、早朝4時半からトレーニング。とにかく、元気で最後まで走り続けたい。それが私の目標、走る理由です。

水野 宅郎(みずの たくろう)さん

寄付先団体: 認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワーク

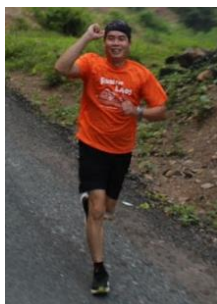


いくつになっても青春できる！高齢でも楽しくマラソンを！

大阪府河内長野市でクリニックを開業しています。82歳の患者さんと青春トークが盛り上がり、「82歳だけどもう一度青春したい、もう一度走りたい」と、ともに大阪マラソンの参加に向けて意気投合。医師として無茶な運動は制限する立場でありながら、一緒に走りたいという想いが上回り、フルマラソン完走をサポートするため医師と看護師でチームを結成しました。毎朝のトレーニングが日課。私の7才の息子と82歳の患者さんで競争するのが恒例です。オーバーワークに気をつけて、適度に休み、目標タイムも調整。マラソン当日は万が一に備え AED と点滴を持参し、全員でゴールの大阪城をめざします。マラソンも青春も、年齢は壁にならない！82歳のランナーがそれを証明するため、元気に楽しく大阪のまちを駆け抜けます。

ソンポーン・カムラボンさん

寄付先団体: 認定 NPO 法人日本ハビタット協会



大阪マラソンが日本とラオスをつなぐ。もっと近くに

私はルアンパバン農業大学の教員で、環境保全チームの責任者を務めています。大学とその周辺の緑あふれる自然を守るため、日本ハビタット協会とともに、地域の子どもや若者へ教育活動を行っています。大阪マラソンは私たちにとって、日本とラオスをつなぐ新たな取り組みになると感じています。マラソンがチャリティとしても意味があることを知り、日本の皆さんがこうした形でラオスの子どもたちをサポートしてくださることにとっても感銘を受けています。今回、私が出場を決めたことで、大学内でマラソンブームが巻き起こり、私達のチームの絆を深めました。さらに、日本の皆さんが同じように練習に励む様子を SNS で知り、今まで以上に日本を身近に感じています。日本の皆さんにも同じ気持ちになってもらえるように、本番でベストを尽くしたいです。

宮路 胤哉(みやじ かずや)さん

寄付先団体: 認定 NPO グリーンバード



大阪のまちをキレイに！自分たちが住むまちを、自分たちの手で！

グリーンバードと私をつなげてくれたのが、大阪マラソンです。私は1万人規模のランナーが走る都市型マラソンで、コース上のゴミを制限時間まで拾う取り組みを2012年から続けています。グリーンバードを初めて知ったのは、2013年の大阪マラソン EXPO。「ゴミのポイ捨て、カッコ悪いぜ！」のメッセージに共感し、すぐに街のお掃除へ参加。いつでもどこでも参加でき、誰とでもすぐに打ち解けられる、居心地の良さに感動しました。翌年からは、グリーンバードのチャリティランナーとして出場しています。大会前はランニング講習会で完走のコツを指導、本番では「追い抜けば完走間違いなし」の目印として、全国の仲間をサポート。今年もグリーンバードの理念を体現しながら、新コースをとことんお掃除します。そして全国の仲間と一緒に、笑顔と感謝を絶やさず完走します！

吉永 美帆(よしなが みほ)さん

個人リーダー



年齢も職業もバラバラのみんなが、一つのチームになっていく。

大阪マラソンボランティアには、2013年に初めて参加しました。翌年よりボランティアリーダーとして活動しています。ボランティア活動は普段20～30名のチームで活動しますが、ほとんどが初対面。年代もさまざまな方同士の集まりです。大会当日はいつも給水所で活動しており、水分補給に来られたランナーさんに、みんなで「がんばってください！」と声をかけています。すると、ランナーさんからも「がんばるわ！ありがとう！」といった言葉をいただくこともあり、温かい空気が生まれていきます。そして活動の終わりには、立派な一つのチームとなり、笑顔で一期一会に感謝してお別れすることができています。今大会の活動でも、ボランティアさん、そしてランナーさんとの出会いを楽しみにしています！

永井 則雄(ながい のりお)さん

個人リーダー



ランナーさんを笑顔で送り出し、そして笑顔でお迎えする！

ボランティアとしての参加は今年で9回目。皆勤賞継続中です。第3回大会からは、ボランティアリーダーも務めさせていただき、素晴らしい人との出会いや日ごろは経験できない感動を毎年味わわせていただいています。ボランティアで参加するときの大阪マラソンの魅力は、なんといってもランナーさんとのコミュニケーション！ここ数年はランナー受付と手荷物返却を担当させていただいています。つまり、ランナーさんを送り出す場所と、ランナーさんを迎え入れる場所です。気持ちよく走り出し、そして気持ちよく戻ってきてもらえるように。ランナーさんを笑顔で送り出すことに楽しさを感じています。ボランティアメンバーにも、楽しんでもらえるのを第一に活動してもらっています。今年もランナーさんが気持ちよく走れるよう、皆さんをお迎えいたします！

大阪マラソンを盛り上げる皆さん

団体ボランティア【代表 箱谷 幸恵(はこたに ゆきえ)さん】



大阪マラソンには、一期一会の出会いがたくさんある！

私たちは趣味であるトライアスロン、ランニング仲間の集まりです。皆さん体力自慢な方ばかりで頼もしい限り。ランナーに落選した数名が「せっかくなら…」と始めたボランティア。それがやがて「ボランティアがしたい！」というメンバーも集まるようになりました。当日初対面になるのもボランティアならではの！一期一会の出会いを楽しみ、皆さんすぐに打ち解けています。今年は千代崎周辺 15 キロ地点での沿道整理で 18 名の仲間と沿道に立ちます。トップランナーから完走目標のランナーまで、

同じフィニッシュラインをめざして走る選手の姿は美しくたくましく、自身も頑張ろうと思えます。ランナーの皆様、当日は心身ともに元気いっぱいにお大阪を駆け抜けてください！私たちも、安全第一で最後まで頑張ります！

全国各地から集まった皆さん

団体ボランティア【代表 土田 一見(つちだ いっけん)さん】



ランナーさんを笑顔で送り出し、

そして笑顔でお迎えする！

私たちは北海道を中心としたスポーツボランティア仲間に声かけし、大阪・奈良・京都・和歌山・兵庫・名古屋・東京・神奈川・千葉・埼玉・福島など全国各地から集まった個人をまとめた団体です。昨年についに 100 名以上の個人ボランティアが各地から集まり、全国から届いた最高の笑顔が大阪のまちに花を咲かせました。3 万人のランナーが走る、東京マラソンに匹敵する大阪マラソンは、東京に

比べランナーのパフォーマンスもユニークだし、沿道で応援する市民がとにかくウケをねらったアイデアで応援しているのが最高に楽しいですね！マラソンボランティアの魅力は、大会に関わるすべての人達との絆が生まれること。今年も 3 万人のランナーに笑顔と大声援を送り、自分たちもエンジョイ！したいと思っています！スマイル！大阪！！

ハモラーズの皆さん

コーラス

都道府県:大阪府



ゴスペルは人生の応援歌！40km 地点で、しっかり背中を押します！

「ゴスペルは人生の応援歌」を合言葉に第1回目から連続して沿道応援隊として歌わせていただいています。「40キロまで来ましたよー！あと少し！」、そう声をかけると笑顔で手を振り返してくれる仮装ランナー。私達のゴスペルにわざわざ戻ってきて一緒に歌ってくれる外国人ランナー。ハイタッチのためにコースを変えて「頑張るでー！」と走り寄ってくれるママさんランナー。皆さんボロボロになりながらも、毎年40キロ地点で歌う私達に笑顔で応えてくれて、それにこちらも励まされ元気をもらっています。このイベントの最初から関わらせていただいております。走ること・歌うことに留まらず「継続すること」の尊さを実感しています。ランナーの皆さん、ボランティアの皆さん、事務局の皆さんに感謝！今年も精一杯歌で応援させていただきます。頑張れー！！

東桃谷 岡地車會(和太鼓)の皆さん

沿道応援

都道府県:大阪府



大阪マラソンという「祭り」を、だんじり囃子で盛り上げる！

大阪市生野区の東桃谷地域でだんじりの曳行をしている東桃谷 岡地車會です。私たちが演奏しているのは、大阪の伝統芸能であるだんじり囃子と龍踊り。天神祭りなどでも演奏されているもので、大阪市内の祭りに欠かせないものです。ランナー盛り上げ隊として7年連続で参加させていただいています。だんじり囃子でランナーの皆さんを盛り上げたことや、時間に間に合わなかった方を乗せたバスに向かって演奏したことをよく覚えています。さまざまな地域の参加者が集う大阪マラソン。少しでも大阪の「祭り」の雰囲気を楽しんでいただき、もっと大阪を好きになってほしい！ランナーの皆さんの背中を押せる後押しできるように、精一杯演奏したいと思います。そして大阪のだんじり囃子を知っていただき、大阪の祭りに興味を持っていただきたいです！

ソーリャはなてん夢舞隊 chihaya の皆さん

ランナー盛り上げ隊！

都道府県:大阪府



ランナーのみなさんのために、全力で踊り続ける！

大阪市鶴見区で2006年より活動している結成13年目のソーランチームです。2013年に初めて参加してからすっかり沿道応援にハマリ、今年で7回目の参加になります。初めて参加した年は「ランナーのみなさんを応援するぞ！」と意気込んでいましたが、終わってみると逆にこちらが元気をもらっていました。何十分も踊り続けるのはとてもキツイのですが、ランナーのみなさんがこちらに手を振ったり声をかけてくれたり、写真や動画を撮りながら走って行かれたり…。いつの間にか楽しく元気に、笑顔になっています。応援団長の森脇健児さんが3年連続、一緒にソーランを踊ってくださいましたのもとても嬉しかったです。演舞後、沿道でカラー手袋をしてランナーとタッチするのもとても楽しい！これからも毎年参加したいです。